

# 甲州夢小路

## 計画背景

甲府市(甲斐府中)は、武田の時代に現在の中央線の以北に誕生しました。

豊臣時代に甲府城を築城し、徳川の時代に甲府城の内堀から外堀にかけて、市街地が形成されました。

明治、大正、昭和に県都甲府市は大発展をし、甲府財閥を生み、日本経済をリードする人材をも多く輩出した。

その後、自動車社会になり、甲府バイパス、中央道の開通により、甲府の住宅、商業地が郊外に延びていった。

それに引換え、甲府中心商店街や市街地が衰退してきた。

## 企画

近年、甲府城を中心にして、観光立県やまなしや産業観光都市甲府を目指す動きが急速に出てきている。

北口都市開発を近代的な都市開発だけでなく、甲府城の北に位置するこのエリアに明治、大正、昭和の甲府市が一番輝いていた時代の街並を再現し、観光客を集客すると同時に、甲府市中心街の活性化にも結びつける事業として企画する。



## 明治、大正、昭和の街並

アンティーク宝石博物館と竹久夢二と版画美術館を石畳の小道(夢小路)で結びその通りには、明治、大正の街並を作る。

又、その路地を入ると昭和の街並があり、それぞれの建物には山梨に因んだ店舗を配置し、甲府の歴史、文化 山梨の産業を体感してもらう。

## 運営 NPO法街づくり文化フォーラム

この美術館で収蔵する作品を季節や時代に合わせて、各店舗をギャラリーにする。各店舗での音楽、演劇など通年催し物をし、このエリアの全体が美術館であり、音楽会場や演劇場として利用する。

